

「祝！親子で同窓生」

今年の新入生として同窓生の伊佐さん（1期生）、大城さん（2期生）、大灣さん（2期生）、今井さん（3期生）、上原さん（3期生）、我喜屋さん（3期生）、嘉数さん（5期生）のご子女7名が入学してきました。現在、3年次に知念さん（1期生）、當間さん（3期生）のご子息も在学しております。我々同窓会会員にとっても大変喜ばしいニュースですので、今後の抱負について元医学科同窓会会長の伊佐さん（1期生）親子に寄稿していただきました。

元医学科同窓会会長(浦添総合病院 消化器病センター長)

伊 佐 勉 (1期生)

コザ市（現沖縄市）中の町の大工の息子として生まれた私は、自由奔放に育ててもらいました。幼少期は野や山を駆け回り（現沖縄市運動公園周辺はその頃は木が生い茂り、川にはグッピーなども生息していました）、小学生の頃は毎日練習に明け暮れる野球少年でした（私の家がチームの野球用具置き場で、チームメイトの溜まり場でした）。

医者になって3年目に長女が誕生しました。いつも私の意志を尊重し、暖かく見守ってくれた両親には感謝していましたので、自分自身もそのように子育てをしたいと考えていました。明るく、常に前向きなアルプスの少女ハイジのような子どもになってもらいたいと思い、ハイジと名付けようかと思いましたが、周囲の反対にあって、断念しました。

高校生になって、「医学部に行って、医者になりたい」と言い出し、うれしい半面、女の子なので（私は古い人間なのでしょう）、あまり無理をして苦勞する必要はないという思いもありました。案の定？、成績がついていかず、浪人することになりましたが、今年やっと念願の医学部に合格することができました。

入学して、講義も受験勉強とは違って専門的で新鮮らしく、家に帰っても楽しそうにその話をし

ています。また、新入生歓迎会やサークルと忙しそうにしており、大学生活をenjoyしているようです。

今は毎日楽しそうにしていますが、専門科目が始まると忙しくなりたいへんでしょう。そんな中でも持ち前の明るく、人懐っこい性格を活かして、患者さんや周囲のスタッフに愛される医者になってもらいたいと願います。しかし、どんなに患者さんに優しくても実力が伴わなければ良い医者とは言えないと思いますので、勉強も頑張ってもらい、大学生活のいろいろな活動のなかで人間的にも成長してもらいたいと思います。

自分で決めて、自分でここまで成し遂げたのですから、これからも良い医者になれるように頑張ってくれるかと期待しています。



2009年職場スタッフ